

「こいつぁ春から～歌舞伎研修！」第三弾

～歌舞伎座で来日客向け説明をマスター～

2019年1月18日（金）実施 第一支部研修報告

「こいつぁ春から～歌舞伎研修！」第三弾が、去る1月18日（金）に歌舞伎座に於いて開催されました。参加者は55名（会員46名、非会員7名、委員2名）。中には熊本、京都、名古屋など遠方からご参加くださった方もいらっしゃいました。

まず、歌舞伎タワー3階のレストラン「花籠」に場所を借りて、第一部(14:00-15:30)の座学が開催され、歌舞伎研究家の前川文子氏による講義を受講しました。講義では、歌舞伎誕生の歴史や、歌舞伎起源の言葉、顔色や髪形などによる役の見分け方、歌舞伎の種類など通訳案内士として知っておかなければならない基礎知識を学びました。また、1978年のウィーン公演で、「歌舞伎は旅する大使館」との劇評を受けるほど海外でも高い評価を受け続けている日本を代表する伝統芸能でありながら、伝統の継承だけに留まらず、さまざまな分野とのコラボレーションで常に進化を続ける歌舞伎の新たな一面にも触れることができました。



第二部(16:30-20:40)では、初春大歌舞伎の夜の部の演目を実際に観劇しました。当日の演目は、『絵本太功記』、『勢獅子』、『松竹梅湯島掛額』の全三幕。第一部で前川氏から解説して頂いたあらすじや見どころを確認しながら鑑賞することができ、これまで以上に歌舞伎を身近に感じられた参加者も多かったようでした。マクベスに匹敵するともいわれる悲劇的一幕。新春大歌舞伎らしく大変華やかなダンスの揃い踏みだった二幕。笑いの要素が散りばめられ会場が大いに沸くと同時に、人形振りの見事さに感嘆した三幕。参加者の皆さんは、長い公演時間にもかかわらず、見ごたえある舞台に酔いしれ、歌舞伎の奥深さと面白さを実感、

体験できた研修となりました。